

魚津三太郎塾 ポスター集

第5期

(平成28年3月～11月)

平成28年11月28日作成

企 業 名

提案者(塾生)

北日本新聞新川支社

堀井政彦

魚津商工会議所

寺口智之

(有)尾崎商会

尾崎勇人

(株)昌栄堂

松田賢悟

(有)源七

窪田祐司

江島建築工房

江島亮

荒木印房

荒木剣

ホリデザイン制作室

阿部ともみ

アシステム税理士法人

片山さゆり

(学)荒井学園新川高等学校

濱元克吉

魚津の水循環プロモーション “海・街・山”観光促進プロジェクト

魚津三太郎塾5期塾生 堀井 政彦

(北日本新聞社 新川支社 電話:0765-24-1111/horii@ma.kitanippon.co.jp)

◆「全国植樹祭」がなぜ、魚津で開催されるのか？

答えは、魚津の「海・街・山」を巡る水循環にあり！...をPRします。

【北日本新聞社の課題】

北日本新聞社は富山県内で日刊新聞を発行して、創刊130年以上経ちます。発行部数は約23万部、県内シェアは60%を超えます。しかし、近年はデジタルメディアの発達やライフスタイルの変化で部数が減っている状態です。

生き残るために、「地方創生」の担い手として、地域と共に地域の課題を考え、市民・県民に伝え、解決を目指す事業を行い、市民の支持を得ることだと考えています。今回は直近の「魚津市の課題」に取り組みたいと考えます。



【魚津市の課題に取り組む】

2017年5月に「全国植樹祭」が魚津市で開催されます。魚津で行われる意義と魚津の恵まれた地形と水循環を活かした市民活動を全国・全県にPRする絶好の機会です。「魚津の水循環」に根差した地域の魅力を訴求することで「全国植樹祭」が魚津で開催されることの意義を伝えたいと思います。



※魚津市の課題は発信力不足であると考えます。「全国植樹祭」をただ当日開催するだけの事業にせず、市民と共に魚津の魅力を県内外にアピールする絶好の機会とすべきかと思えます。

【企画概要】

海

- ・魚津の海の幸
- ・人々の営み(過去、現在)
- ・水循環の中の魚津の海
- ・魚を使った新しい取り組み
- ・地形と自然現象、埋没林
- ・たてもん行事、神社

街

- ・街中の水の巡り
- ・人々の営み(過去、現在)
- ・水循環の中の魚津の街
- ・食事処や産品、名物
- ・漁師町、商店街、リンゴ畑

山

- ・魚津の山の幸
- ・山里での水の活用
- ・人々の営み(過去、現在)
- ・水循環の中の魚津の山
- ・温泉、田畑、山、木



【実施内容(案)】

◆北日本新聞朝刊で、「魚津の水循環」キャンペーン特集（海・街・山編）

◆実際に「海・街・山」を訪ねて、魚津の「水循環」と「食」を楽しむツアーイベントを開発

◎魚津の海・街・山に暮らす、働く市民の方々の「水循環」を活かした取り組みを新聞紙面で紹介します。漁業、商業、農業、まちづくり活動、学生活動など。この連載を通じて、魚津市民が水循環を活用して暮らしたり、企業活動をしているかをアピールし、「全国植樹祭」開催都市・魚津をPRします。2017年1月～3月に掲載します。

◎魚津の海・街・山を実際に巡り、魚津の魅力である「食」を楽しんでもらうツアーイベントを行います。2017年3月に実施します。※三太郎塾のメンバーの方々(OB含)の協力を得て、魚津の水循環と、それを活かした「食」を楽しんでもらうツアーを開発します。新川高校の学生のみなさんにも案内人になっていただきたい。



東京・中野線「うおづや」を通じて



魅力ある町・うおづを

発信!

魚津商工会議所 寺口 聖之

〒924-8607 富山県魚津市魚津1-1-1

TEL: 076-434-1286

魚津商工会議所と地域

商工会議所は、地域の商工業者の世話を代わり、商工業の振興に力を注ぎ、地域経済の発展に寄与することを目的とした地域総合経済団体であり、会員会費が活動費となっています。しかし、現在では地域の専業用数が減少し、それに伴い会員数や会費収入も減少しています。一方で、会員は豊かな自然の魅力を気づいていません。

◎当所の課題

会員の減少 → 収入の減少、活動の縮小
サービス・ネットワークの衰退

◎地域の課題

豊かな自然(水循環)の魅力に気づいていない

※魚津市まちづくり市民意識調査より

課題を解決するには?

→ 「**うおづの魅力**」の掘りおこしが必要

水循環とは?

水は、蒸発・凝結して雲となり、雲から雨が降り、その雨が川となり、川によって海へ流れるという循環を繰り返しています。この循環が、地球上のすべての生物を支えています。また、水は、地球上で最も貴重な資源の一つです。水は、地球上で最も貴重な資源の一つです。水は、地球上で最も貴重な資源の一つです。

※魚津市まちづくり市民意識調査より

うおづ最大の魅力
= 豊かな食文化

うおづの“食”の魅力を地域外に向け発信・PR

魚津の食をPRする場「うおづや」をプロデュース!



魚津市観光協会、魚津商工会議所が、東京から移住した若手経営者と協力し、積極的に魚津の食の魅力もPRできる場「うおづや」を開店。中核店舗が商業施設として、地域外からの交通人口の増加、空き店舗対策、地方移住との連携が、魚津にとっては知名度の向上、魚津産品の世界的なPR・販売、観光ツアー受入れ等による交通人口の増加など、双方にとってメリットとなる事業を目指しました。



「うおづや」OPENまでの取り組み

- 1 中核様より、店長(飯沼)の受入れ → 漁業専攻の料理修行・生産者の紹介
- 2 うおづの歴史・文化(食文化)の紹介・伝達 → 生産現場の視察・見学
- 3 食材・調剤の紹介・提供、流通経路の確保 → 業者、団体との連携(酒蔵等)
- 4 店舗デザインの提案 → 浜辺明弘氏(魚津市出身デザイナー)の協力によるロゴデザインのもの、はんにこ、名刺、うおづ情報誌(かわら版)などの制作
- 5 魚津の作業・接客へのオーダー → 食経(五島利二氏)、観光取(南野歩美氏)、テーブル天板(郡川森林組合)等

うおづ人のこだわりが詰まった
うおづの魅力あふれるお店に!



- 「うおづや」に期待される効果
- 1 首都圏での発信により、うおづの知名度があがる!
 - 2 魚津の生産者、加工者、事業者の売上げが増加!
 - 3 商品のブラッシュアップや新商品の開発!
 - 4 イベントや観光ツアーによる人の交流!
 - 5 会員であるメリット、会員増強!

「うおづや」に参加することが、自分たちの活性化に繋がるという仕組みを作ります。そのために、商工会議所のネットワークを利用し、さまざまな補助事業等を組み合わせて参加者を支援させていただきます。

今後の動き

- ◎うおづの水循環が育む豊かな食文化の魅力を知り、より多くの方々がうおづを発信していきます。
- ◎魅力ある地域を知る会員が、多方面でうおづの魅力を様々な方法でPRしていきます。
- ◎うおづの魅力を掘りおこし、かがやけるまち魚津「STAR UOZU」プロジェクトへ!



地魚でつくる揚げ蒲鉾の移動販売

尾崎かまぼこ館

(有) 尾崎商会
尾崎勇人

かまぼこ業界を取り巻く変化・状況

全国のかまぼこ消費量は年々減少している。現在、業界を挙げてかまぼこに含まれる良質なたんぱく質をテーマとしてアピールし、大手かまぼこ会社が減塩かまぼこを開発するなどして継続的な需要喚起を狙っている。富山県においては、かまぼこの消費量が全国の平均以上で、スーパーマーケットやお土産店などで県内外の様々なメーカーのかまぼこが扱われている。

地元ではあまり知られていなく、また調理法が忘れられてしまった魚種を利用し、自社ですり身をつくる。未利用魚や獲れすぎた魚、機会があれば大型で値が付きにくい魚など、そのときに手に入る魚種でかまぼこをつくる。現在、かまぼこの主原料のすり身は圧倒的に冷凍すり身であるが、冷凍すり身は魚種やランクにより色、弾力、歯ごたえの違いしかない。機械的に魚が処理されると本来の旨みがそこなわれてしまう。

未利用魚・低価格の魚を用いて
すり身にし、揚げかまぼこをつくる

移動販売では、「地魚の揚げかまぼこ」自体の売り上げを重視せず、買っていただけるお客様と、かまぼこの機能性の話題、原料の魚種の話や生のすり身から作るかまぼこの魅力をPRすることに努める→自社PRに繋がりが、小売店にて自社のかまぼこを選んで買っていただける切キツカケを作る。

催事場やスーパーマーケット
などで揚げたてのかまぼこの
移動販売をする

量産型のかまぼこと違った、魚の風味と旨味のある揚げかまぼこは高級食品で嗜好性もありとても美味しい。かまぼこの魅力を多くの人たちと対面して紹介していくことがなにより自社のPRにつながると思っている。地魚の揚げあげかまぼこが定着していけば、値が付きにくい魚種の需要喚起にもつながり、また地域の食文化の発展にも繋がる可能性がある。

この事業案の問題点

- ・未利用魚・低価格の魚は、主に小骨が多い、魚体が小さいなどによる処理の難しさ、またその魚種ごとの鮮度管理や加工の難しさがある。
- ・そうした魚は競り場に出ないまま廃棄や飼料にされる場合が多いので手に入れる方法を考える必要がある。
- ・近辺ではすり身の加工工場がないため、自社だけでは余裕のある時期でも加工できるすり身の量が限られている。

自社のかまぼこのシェア拡大を狙うとともに、
未利用魚など、値段の付きにくい魚種
を用いて地魚の揚げかまぼこのブランド化を目指す



地産地消クッキー ~加積リンゴで魚津を元気に~



加積リンゴ

生産者の庭先で販売され、ほとんど市場に出回らないことから「幻のリンゴ」と呼ぶ人もいます。100年もの歴史がありその間に培われた先人たちの努力の末に今の加積リンゴの美味しさは成り立っているのです。加積リンゴのブランド価値を底上げし、多くの方にこのリンゴの良さを伝えていくことが今後必要になってくる。

リンゴ農家の課題

- 1・後継者不足
- 2・B級品の廃棄
- 3・販路が乏しい

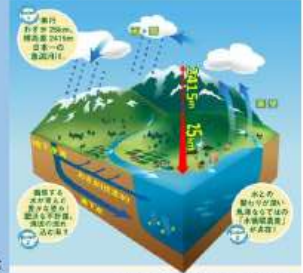


和菓子屋の課題

- 1・デザート類の多様化による和菓子離れの増加
- 2・消費者のダイエット志向や健康志向の高まりによる、お菓子離れ

魚津の水循環

魚津市では、海岸から標高2400m以上の立山連峰に連なる山岳に至るまで、直線距離でわずか25kmしかない急峻な地形をもつ毛勝山や僧ヶ岳などの山間部へ降り注いだ雨や雪が、川や地下水となって扇状地を流れ、富山湾へと注いでいます。海へ届った水は、雲となって雨や雪となり、再び大地に降り注ぎます。このような素晴らしい環境に恵まれた魚津市では、様々な農産物が取れ、多くの魚津市民の生活を支えています。



魚津市観光協会HPより引用

加積りんごの良さを最大限に生かしたお菓子を創ろう

一級品の素材

摘みたてのりんごを**即加工**！リンゴ農家推奨の完熟のB級品を使用。地元の菓子屋と農家が手を取り合うことで、**安価で一級品の味**を再現することができる。

米粉クッキー

クッキーの材料には**富山県産のコシヒカリ**を使用した**米粉**を使用。全国でも高い人気を誇る富山県のコシヒカリ。粘りが強くやや硬め、甘味のバランスがとれたお米です。



お土産に！

りんごの皮と果肉はジャムに加工して使用する。そのため**長期の保存が可能**となり、手土産として手軽に県内外に持っていくことが可能。

販路拡大

りんご農家一軒一軒に**委託販売**してもらうことで、多くの販路を開拓。加積りんごの可能性を広げる。

さらに

りんごの皮には**栄養たっぷり！嬉しい美容効果も♪**

- 1 プロシアニン・・・りんごに特に多く含まれ、強い抗酸化作用が並び、活性酸素を抑制し、**血流を改善**します。
- 2 エピカテキン・・・こちらも抗酸化作用が高く、活性酸素を除去し、血管を若返らせてくれます。その効能は、**高血圧や動脈硬化、ガンなどの生活習慣病を予防**します。
- 3 アントシアニン・・・ブルーベリーでも馴染み、アントシアニンは、植物が紫外線から身を守るために、蓄える成分で、**視力の改善や眼精疲労の予防、白内障、緑内障などの眼病を予防**します。

効果

- ブランド力UP
- 水循環保全
- 地元生産者とのつながり
- 販路の増加

将来像

加積リンゴの需要を増やすことで後継者不足の解消、廃棄品の価値の底上げ、販路拡大につながり、りんご農家の様々な問題を解消できます。そして、地元の農家とのつながりをより強固なものとし、今後様々な農産物を使ったお菓子を創ることで、**地産地消 = 魚津のイメージ**を消費者に持ってまいります。

このような地元の農産物を使ったお菓子を作ることで、県内外の方々に魚津の農産物への需要を伸ばしていき、魚津のよりよい発展を目指します。

おもち屋 (有)源七

富山県魚津市にて一九八四年創業。地産地消の小さなお餅屋です。

人生の節目毎のお餅の他、

富山の郷土料理の「芋かいもち」や

魚津名産「バイ飯おこわ」

の販売もしております。

源七の課題

- ①お餅文化の継承
- ②価値の創造

地域の課題

- ①人口減少

元来お餅はハシの日に、欠かさず食べられてきたもので、子が食べ物に困らぬよう、円満に生きるよう、餅を背負って歩く誕生餅、新築を建てた際に、周囲の方々へのお祝いや、家内安全、事業反響を願う餅まきなど、日本には様々な行事があり、一つ一つに特別な願いが込められています。

- ④想いを伝える
”特別な行事”
あなたの物語



- ③形を決める
”特別のカタチ”
想いの具現化



”ハシの日”の オーダーメイドサービス

[WARASIBE]



- ①シーンを選ぶ
”特別な日”
日本の食文化

誕生			婚礼	出産祝い
		節分	開店祝い	白米
	新築		開校	
開業	十五夜		開業	

- ②食材を選ぶ
”特別な食材”
魚津の水と米

小豆	監州	昆布
	熊笹	西川
栗	林檎	
	胡麻	大根
黒糖		桃

”お餅”は人と人をつなぐ
コミュニケーションフード
”お餅文化”は
人の輪をつくる文化
”和と輪”お餅屋 源七

- ①節目を祝う
- ②想いを届ける
- ③人の輪ができる
- ④地域に根付く

この事業を通しての将来像



”特別な食材”
魚津の水と米
から作られる
源七のお餅

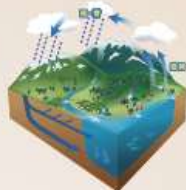
地元のお話。魚津の水循環
お餅屋源七がある魚津市は、海から山までわずか二十五キロという土地です。日本一の急流河川の「片貝川」があり、立山連峰の雪解け水が一気に流れ落ちる。海に流れ出た水はまた雲になり、雨となり、川に流れ、また海に戻る。こうして一市で水が循環しています。これが魚津の水循環です。また、豊富な湧き水、地下水のおかげで、市内全域で天然のミネラルウォーターを飲む事ができます。豊富な湧き水で美味しい食材が育まれる為、米・野菜・魚・様々な食材が手に入る、食材の宝庫なのです。

『文化を守ることは人口流出の歯止め、1人1人の幸福度を向上させます』

地域課題

魚津市は、海岸から標高 2,400m以上の山岳地帯に至るまでの直線距離がわずか 25km しかない急峻な地形から成り立っており、毛勝三山などの山岳地帯に降り注いでいます。

この水循環によって生まれる水は、飲用や産業用にも利用され、さらに魚津市の水道水は 100% 地下水でまかなうことができます。



この貴重な水循環を残していくためには、海の環境保全はもちろんのこと、山の保全も重要と思われます。その山の保全に有効な手段としては、間伐作業が必要不可欠ですが針葉樹の需要が少なく、あまり間伐されていない山々があるのが現状です。

今日の環境負荷の増大は、日常生活と経済活動が一因となっていることも事実です。短期的には人口減少が環境負荷の低減をもたらすという考えもありますが、長期的にみると人口減少は、労働力人口や消費者数の減少などを要因として、経済成長の鈍化や財政の悪化をもたらす可能性があります。これにより、環境保全のための投資や支出が減少し、環境技術の開発力や環境効率性が低下することも考えられます。

魚津の家を創るに、

企業課題

当社は、昔ながらの「大工」と呼ばれる建築業です。昨今は、大手のハウスメーカーなども多数あり競争が激しい業種のひとつであります。当社は、大手のハウスメーカーと比べて広告や人件費、会社の維持費など経費に費用をかけるようなことはしません。その分を実際の工事費にかけることができ、その差は同じ金額の家でも 3 割近くの差があると思います。

必要経費が少ないという反面、宣伝力が少ないというより無いに等しいというのが現状です。

そのため当社のお客様は、知人や近所の方、その方々のご紹介が大半を占めています。

当社の強み

当社と大手ハウスメーカーの違いは、同じ金額の家でも、当社は会社経費が少ない分、建物にかける予算を増やすことができます。さらに昔ながらの技術で増築や改修もできます。そして地元を知り尽くした大工だからこそできる地域に根ざす家創りをご提案できます。



魚津の人循環が水循環を守る。

「魚津に住みたい。」「魚津で家を建てたい。」と思う方の人口増加によって魚津の水循環を守っていくことにつなげる。

森林保全 意識不足 宣伝力不足

大工さんに出会う日



大工さんに出会う日 in 魚津水族館

開催時期：夏休み
参加者：市内近郊の親子



・魚津の間伐材



・水族館に設置してある水循環の説明看板を利用し水循環を当社が説明する



・魚津の間伐材を有効活用したイス作りを体験してもらう

● 水循環を知ってもらう。

● 間伐材に触れてもらう。

● 当社を知ってもらう。

大工さんに出会う日

水循環への意識向上

当社の環境意識と技術を知って頂く

魚津で家を建てる家を改修する

魚津の人口維持へ

魚津の水循環を守る



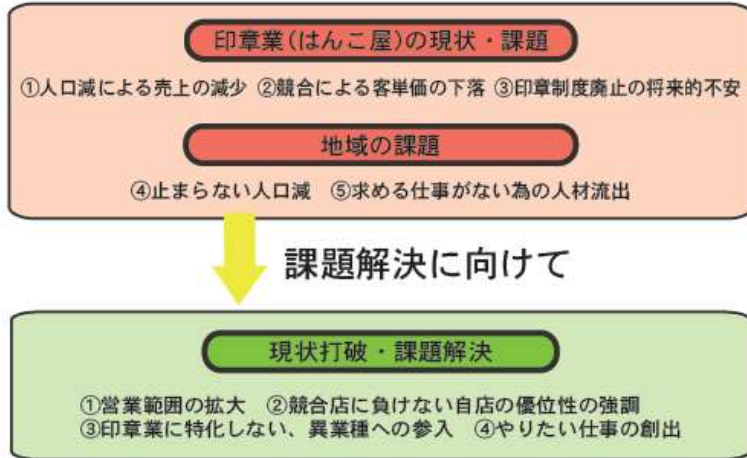
江島建築工房

937-0851 富山県魚津市住吉 3718-5
0765-24-8370

文字の総合商社への道

～書家・デザイナーマッチングビジネス～

(有)荒木印房 荒木 剣



魚津の水循環



魚津市は、海岸から標高2,400m以上の山岳地帯までの距離25kmの急峻な地形から成り立っており、毛勝三山などの山岳地帯に降り注いだ雨や雪は、地下水や川となって富山湾に注いでいます。この水循環によって生まれる水は、飲用や産業・農業用水にも利用され、魚津市の水道水は100%地下水でまかなうことができています。この水循環はもちろん自然が生み出したものですが、そこに寄り添い生きていく人がいます。人々は水に感謝し、その環境を守り生活をしています。人が居ることにより、それが水循環を守ることに繋がると言われています。

特に気になる点は**人口の減少**です！
自然に減少していく要因も大きいのですが、他市他県への流出も要因の一つです。住み良い町作り、求める仕事・雇用の創出等々が必要です。私は町作りや雇用の創出といった大きな事は出来ませんが、魚津に新たなビジネスを作り、魚津でやっていこう！と思う、きっかけを作りたいと考えています。そこで出来る事から始めていこうと思ひ、私の考えたビジネスはこちらです。



起業する時には必ずハンコが必要！

書家・デザイナーマッチングビジネス

普段皆さんが見慣れている文字は、ほとんどがパソコンで作られているフォントです。見慣れているので、見やすい文字であると共に、見逃しがちになる文字です。これからの会社・お店の顔となる、社名・店名をありきたりの文字で作らずに、**完全にオリジナルの文字やデザイン**で作ってはどうでしょう？
特に飲食店などは、そこを変えるだけで、今まで通り過ぎていたお客様を取り込む事が出来る可能性が高くなります。当社では一般の方がなかなか接する機会のない、**書家やデザイナーとのマッチング**のお手伝いをさせていただきます。魚津市はもちろん、市内外には沢山の書家・デザイナーの方々があります。中には自分の持つ力をどのようにして発揮すれば良いか分からずに、その才能を生かさずに過ごされている方も沢山います。



〔書家作品事例〕
店舗 笑月 / 柵



魚津三太郎倶楽部

文字の好みは千差万別、人によっては何の価値もないものでも、見る人によっては素晴らしく価値のあるものになります。〔デザイナー制作事例〕
ホリデザイン制作室作成



当店・地域の将来像

新たな仕事と人の繋がりにより、社業の発展、地域に雇用の創出、人の循環を生む

リデザイン = 成長するデザインを取り入れよう



ReDeSiGN

「リデザイン」とは——ヒト・モノ・環境を持続可能にするための成長するデザインのこと。

課題

自分

- 1ターンしてきたので地域での認知度が低い
- まだまだ人のつながりが希薄

地域

- デザインの重要性が浸透していない
- 魅力的な商品があるのにパッケージなどが昔のまま、もしくは伝わりにくいデザインである

ホリデザイン制作室=アベトモミ

広告代理店、デザイン会社等を経て、2015年夏、魚津市への移住を機にフリーのグラフィック・デザイナーとして活動。デザイナーとして18年、グラフィックからパッケージ、プロダクト、イベントなどのデザイン・ディレクションに関する、仕事の傍ら、全国の地域を巡る旅をしており、現在21県ほど、秋田県出身。

ヒト

出会った地域のヒトはみなかけがえない個性を持っている。個性を活かしたヒトのチカラを「旅のヒト」目録で発掘!

モノ

ヒトや環境が生み出す財産。魚津市には水循環から生まれた、他にはない生産物がある。

UOZU CITY : TOYAMA

地域

ヒト、モノを生み出す環境。うおづには世界的にも稀有な自然環境「魚津の水循環」が存在している。

持続可能な地域にするには?

ReDeSiGN リデザイン

©ホリデザイン制作室

モノ

新たな価値を創造

話題性を高め、新たな購入層を開拓、既存品の魅力を見直す機会に

例)もともとある商品が売れない「プロダクト、パッケージのリデザイン」



間伐材コースターをリデザイン
うおづらしいコースターに
水族館のお土産としての提案も

ヒト

問題を解決する デザイナーとして

根本から問題解決し、イメージを統一するデザイン・ディレクションができる

例)会社のイメージを一新したい「ウェブサイト、広告チラシのリデザイン」



地域

地域の特性をさらに 魅力あるものに

現状を手直しの形で、新たな交流イベント、交流スペースをリデザイン

例)旅する人が気軽に立ち寄れるスペースを「コワーキングスペース&本屋」空き屋の位置や状態を可視化する「空き屋マッピングらぼ」(仮)

登気楼=魚津を象徴する場所に新スポットを「しんきろうロード・ドロブプロジェクト」(仮)

水循環を巡るツアーを刷新したい「ツアー内容や参加者募集のリデザイン」



魅力あるヒト・モノ・環境で、持続可能な地域へ

価値を創る力を身に付ける 子供向けプログラミングスクール

「富山県の中小企業を元気に」を合言葉に

1 企業課題

AI(人工知能)により、将来なくなる職業に会計事務所があるんやって。仕事なくなったら困るし・・・
10年後20年後、コンピューターやロボットに置き換わる職業がたくさんでてくる。

2 地域課題

魚津市の人口もH52年の2040年には3.2万人やと。**人口減少と少子高齢化問題**か。**若者の地域離れ**も問題やよ。
なんでかね? 地元でやりたい仕事ないから? この恵まれた魚津で何かやりたいこと見つけて仕事にできたら最高やね!
そんな若者がたくさん増えて欲しいわ。

3 仮説

プログラミング教育によって子供たちは自分のやりたいことを自分の手で生み出し発展させる能力が身に付き、将来はここ魚津で創業をし、雇用をし、魚津市の**人口減少を緩和し、人口維持**が期待できる。

4 事業内容

【子供向けプログラミングスクール】

- ★プログラミング基礎講座
Scratch(スクラッチ)や文科省のプログラミングなどの子供向けに開発された言語を使ってプログラミングの基礎を学ぶ
- ★ロボット工学講座
ロボットの基本製作を通してロボットの動作プログラミングを学ぶ
- ★アプリ開発講座
iPhoneやWebのアプリの開発を学ぶ



なぜ、税理士法人がプログラミングスクール?
10年後20年後を見据え、地域発展のリーダーシップをとっていくことが私たち企業の使命だからです。

アシステム税理士法人とは

地元で45年、お客様と共に100年続く企業経営を目指し日々、会計を通した経営支援を行っています。また、本田経営研究会では通算200回目の経営者の勉強会・交流会を開催し、経営に強い経営者の育成およびネットワークの形成を願っています。他にも、創業スクール、地域ボランティア等を通して企業発展のパートナーそして地域社会に貢献するために活動しています。

創造する未来へ



7 未来像

- ◎モノ作りもデジタル化の時代。モノ作りが盛んな富山も将来的にプログラミングは必須能力となる。
- ◎プログラミング教育により、多くの事業家が生まれ、**人口を維持し続ける魚津市**となる。人により里山が守られ、魚津の水循環も守られる。
- ◎魚津出身のプログラマーによって、魚津の豊かな土地、水循環が**全国へ世界へ発信**され、多くの移住者を惹きつける。
- ◎魚津から**新たな三太郎博士**が誕生する。
四太郎、五太郎・・・百太郎



5 効果

- Q:なぜプログラミングなの?
A:まず、**論理的思考力**や**問題解決能力**が身に付きます。次に、プログラミングができてスゴイという時代から**プログラミングはできて当たり前**の時代になります。その前にやる必要があります。
- Q:なぜ小学生からの?
A:プログラミングは文章の読み書きや計算といった子供のうちから身に付けるべき基礎的な学力という位置づけです。都心では既に子供向けプログラミング教育が激化しており何もしなければ都心との**教育格差**も懸念されます。

6 展開

- ①2020年から小学校でプログラミング教育の**必修化**が検討されている。
- ②パソコン1台あれば休ひとつで勉強もできるし仕事もできる。**魚津を仕事場**として選択できる。
- ③需要と供給で言えば、圧倒的にプログラマーが不足しており、今後はプログラマーの質が問われる時代に入る。**ITを使う側から創りだす側**への移行。
- ④地元の職業訓練施設等との**連携**、小学校の放課後スクールや夏休みを利用したキャンプなど様々な形を模索する。
- ⑤魚津っ子、**ALLプログラミングマスターへの道**



魚津のまち、わたしたちの町、高低差3400mの魚津の水循環は、わたしたちに様々な恩恵をもたらしてくれます。雨水が山脈や平野に降り注ぎじわじわと大地の栄養素を取り入れた魚津の水のように、魚津の魅力・恵みで育った若者が、魚津を元気に、富山を元気に、そして世界で活躍する魚津人へと成長して欲しい。**子供たちへの教育は私たち大人の役目であり、使命です。**



魚津の未来をつくる人をつくるプロジェクト

はじめに

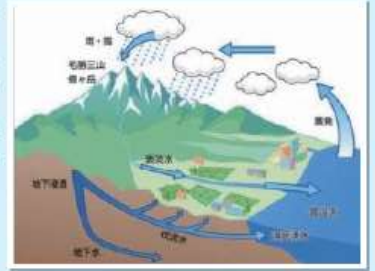
新川高等学校は1973年(昭和48年)創立の新川地区唯一の私立高等学校です。約9000人の卒業生が地元地域で活躍しています。富山県内の高校生の地元進学率が2割を切るなか、新川高校の卒業生のほとんどが県内の企業に就職し、また、地元の上級学校に進学します。地域を支えているのは新川高校と言っても過言ではありません。

皆さん、未来の魚津を想像してみてください。今、存在していない職業もたくさん出てくると思います。外国からもたくさんの人々が魚津に住み、一緒に仕事をすることもあると思います。皆さんが活躍する未来は、どこにいても世界中の様々な考え方を持つ人とコミュニケーションをとっていかなくては行けない世界になっていると思います。また、日本は少子高齢化が進み、20年後には全人口の4割が60歳以上となります。そしてそれを現在の4分の3まで減った若者が支えていかなければいけません。

これからは、今まででは考えられなかったスピードで世の中の仕組みが変化していきます。「勉強が得意かどうかではなく、常に学ぶとするかどうか」です。これまでの学びは、知識を身につけることでした。今は、調べる道具がそろっています。ただの知識は情報に置き換えられる時代です。これからの学びは、情報を使いこなす「知恵」が必要になります。この「知恵」を地域を知ることを通して学び、「生きる力」を身に付けていきます。

未来を支える若者が必ず知っておかなければならない水循環

世界の自然の循環と書かれるほどの魚津の自然。そして水循環。豊富な海の幸や山の幸、曇気層発生メカニズムまでもが、この魚津特有の自然環境かによるものです。あまりにも身近な存在でありながら、大変貴重な環境であることを地域に住む全員が理解しておかなくてはなりません。



社会で生きていくために

今年度、新川地区の県立高校で定員を満たさない高校が複数校ありました。原因の1つとして考えられるのは、新川地区の生徒のうち富山地区の高校を受験した生徒が増加したことです。理由は様々あると思いますが、子どもたちが富山地区の方に魅力を感じていることに間違いは無いところと思われます。同じような状況が、全国各地で起きています。

これからの時代はグローバル化が更に進みます。しかし、英語が話せたり、都市や海外で活躍することだけがグローバル化では無いと考えています。地域の魅力を世界レベルで考えられること、そして何より社会で生きる力を身に付けることこそグローバル化に対応するために必要なことではないでしょうか。

高校で十分に力を付けてから社会へ羽ばたかせ、地域の未来に寄与することが、我が校の使命と考えています。



新しい学びの活動

コミュニティビジネス委員会

- 【目的】
- ・生徒に学業以外の生きる力を身に付けさせる
 - ・生徒に地元の良さを理解させ、地域とのつながりを持つ



魚津の水は、急勾配な地形を短時間で通過するのが特徴。ミネラル分が他の地域の水と比べて少なく、絶妙なバランスがコーヒーの味を引き立たせます。コーヒーはこういうものという固定概念がない若い高校生が作った初めてのコーヒー。延べ16種類をテイस्टングして、この味にたどり着きました。

人材育成の仕組みづくり

「職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力」

II

「社会人基礎力」(経済産業省H18.2)

< 3つの能力/12の構成要素 > を元に、事業イメージを構成



オリジナル商品開発を通じた人材育成



地域を知る活動を通して生きる力を身に付ける仕組みを完成させ、将来に渡って魚津・新川地区を担う人物を輩出していきます。